

2号機原子炉格納容器内部調査について

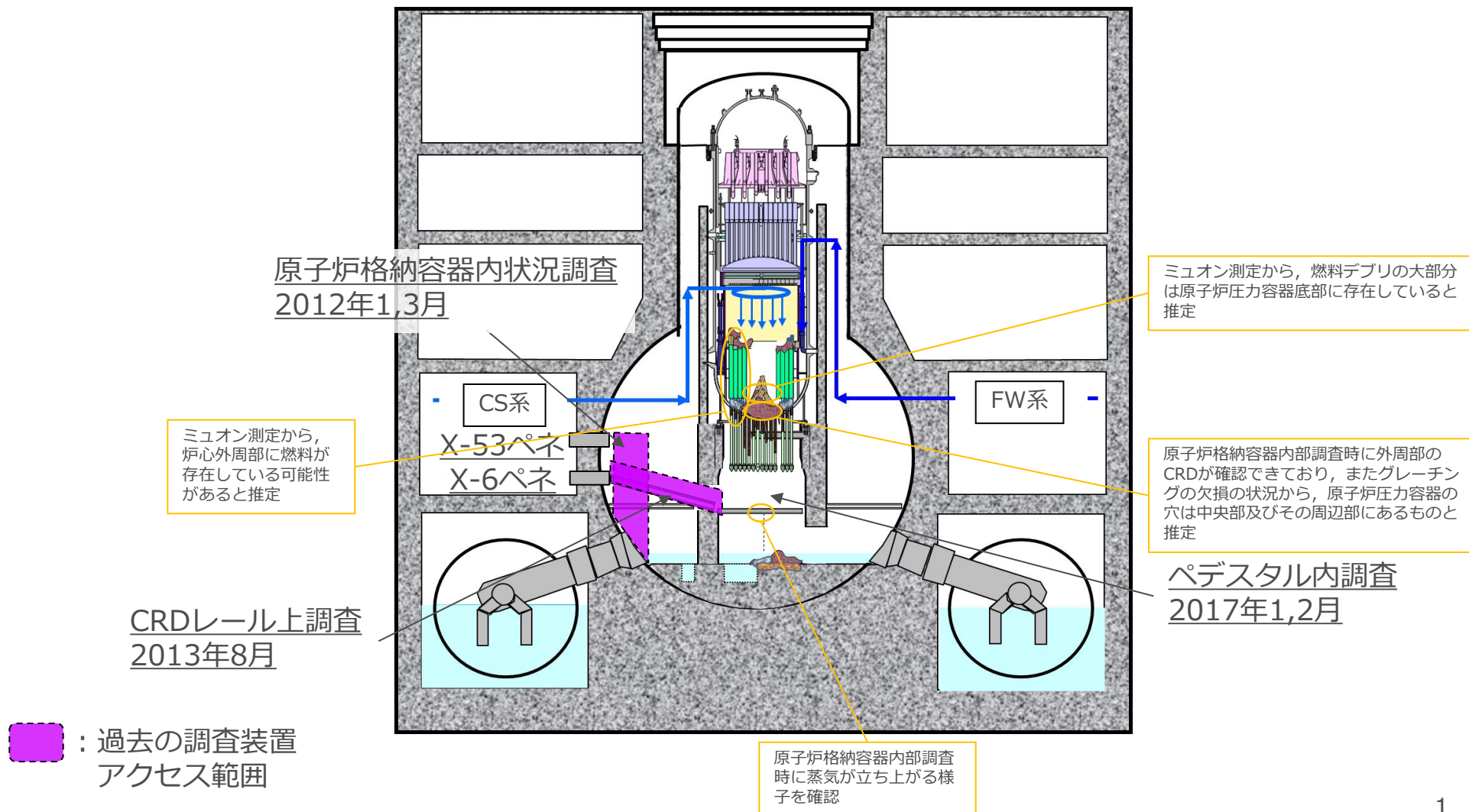
2017年11月30日



東京電力ホールディングス株式会社

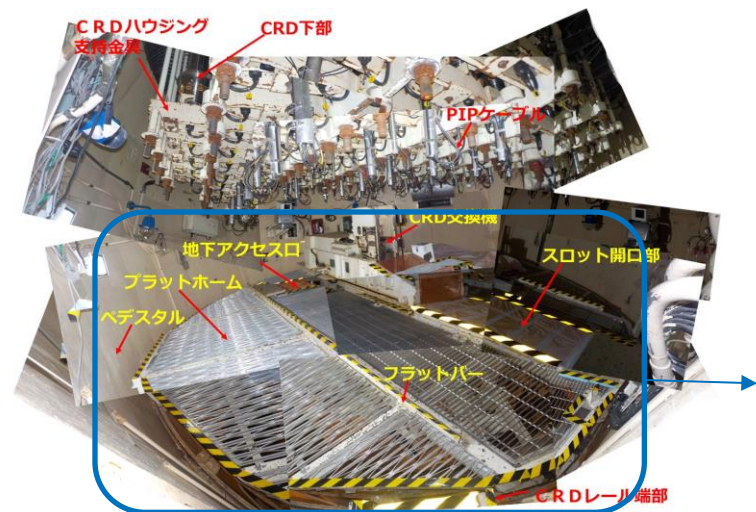
1. 2号機PCV内部の状況について

- 事故進展解析から、2号機では溶融した燃料のうち、一部は原子炉圧力容器（RPV）下部プレナムまたはペデスタルへ落下し、一部は炉心部に残存していると考えられる。

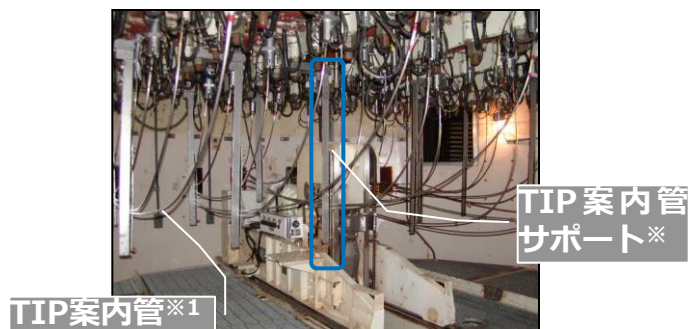


2. 2017年1～2月PCV内部調査の結果について

- 2017年1～2月に実施したPCV内部調査のうち、ガイドパイプによるペデスタル内事前調査にて、ペデスタル内のグレーチングが一部脱落していることを確認

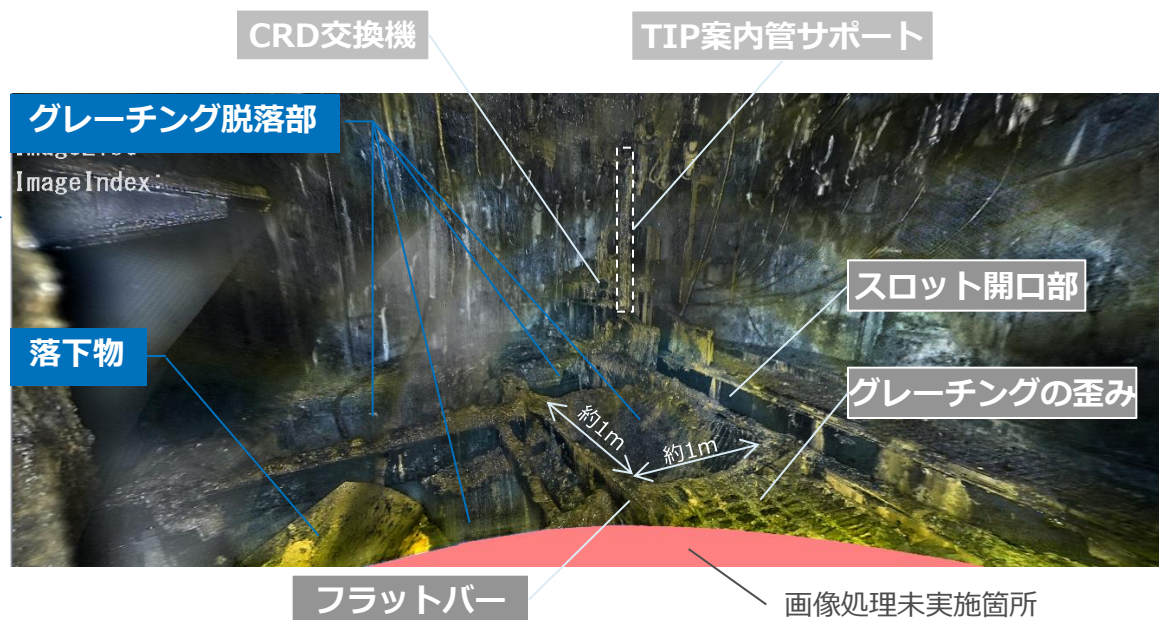


(参考) 5号機のペデスタル内



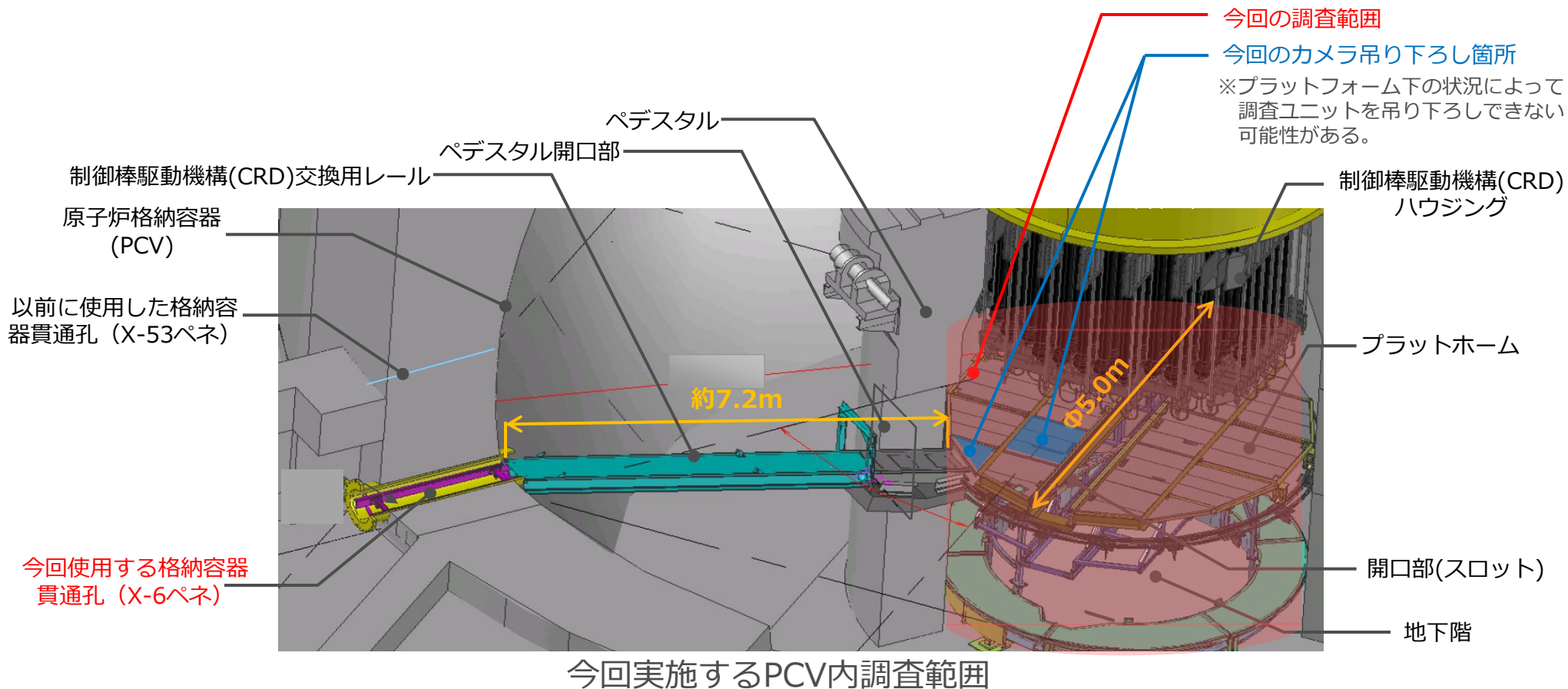
(参考) 2号機のペデスタル内定検中写真

※5号機は点検のため、TIP案内管及び
TIP案内管サポートは取り外されている



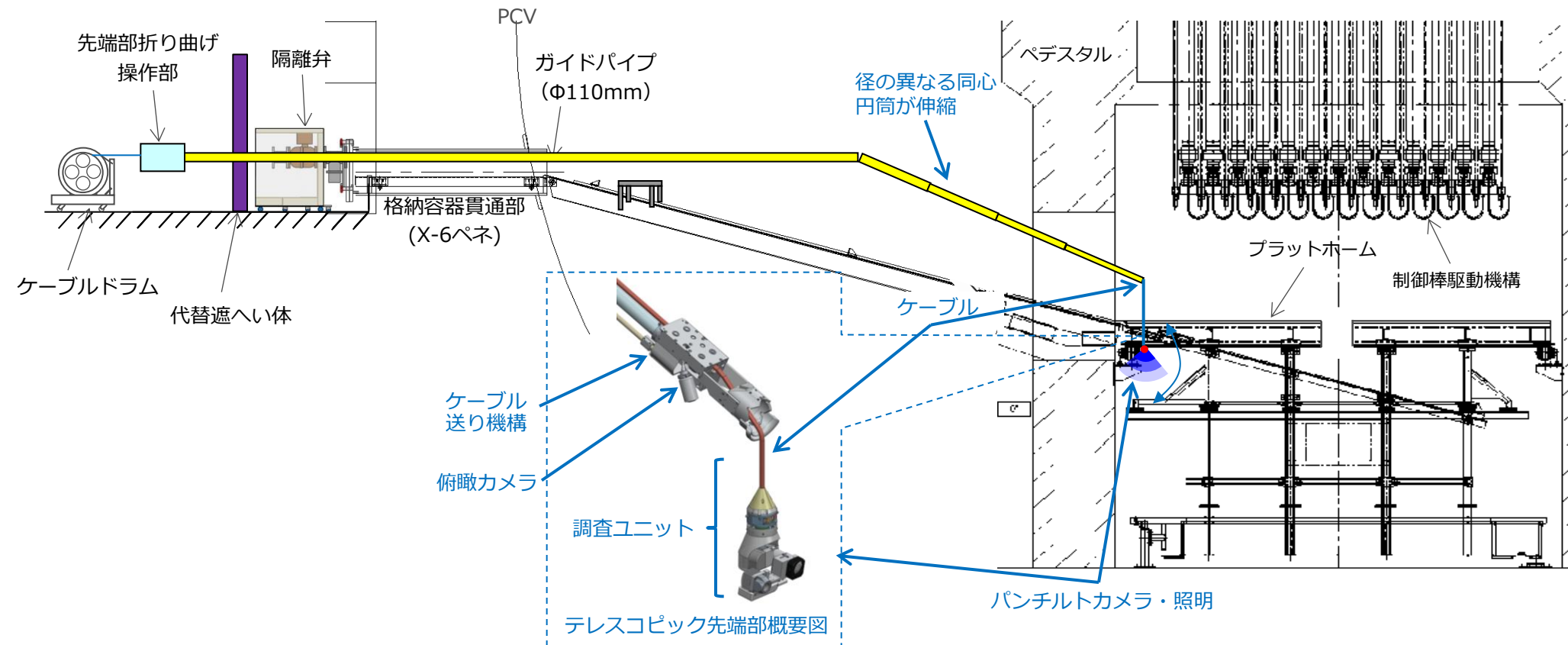
3. 今回実施するPCV内部調査の概要について

【調査計画】:燃料デブリが存在する可能性のあるプラットフォーム下の状況について、確認を行う。



4. 調査方法について (1/2)

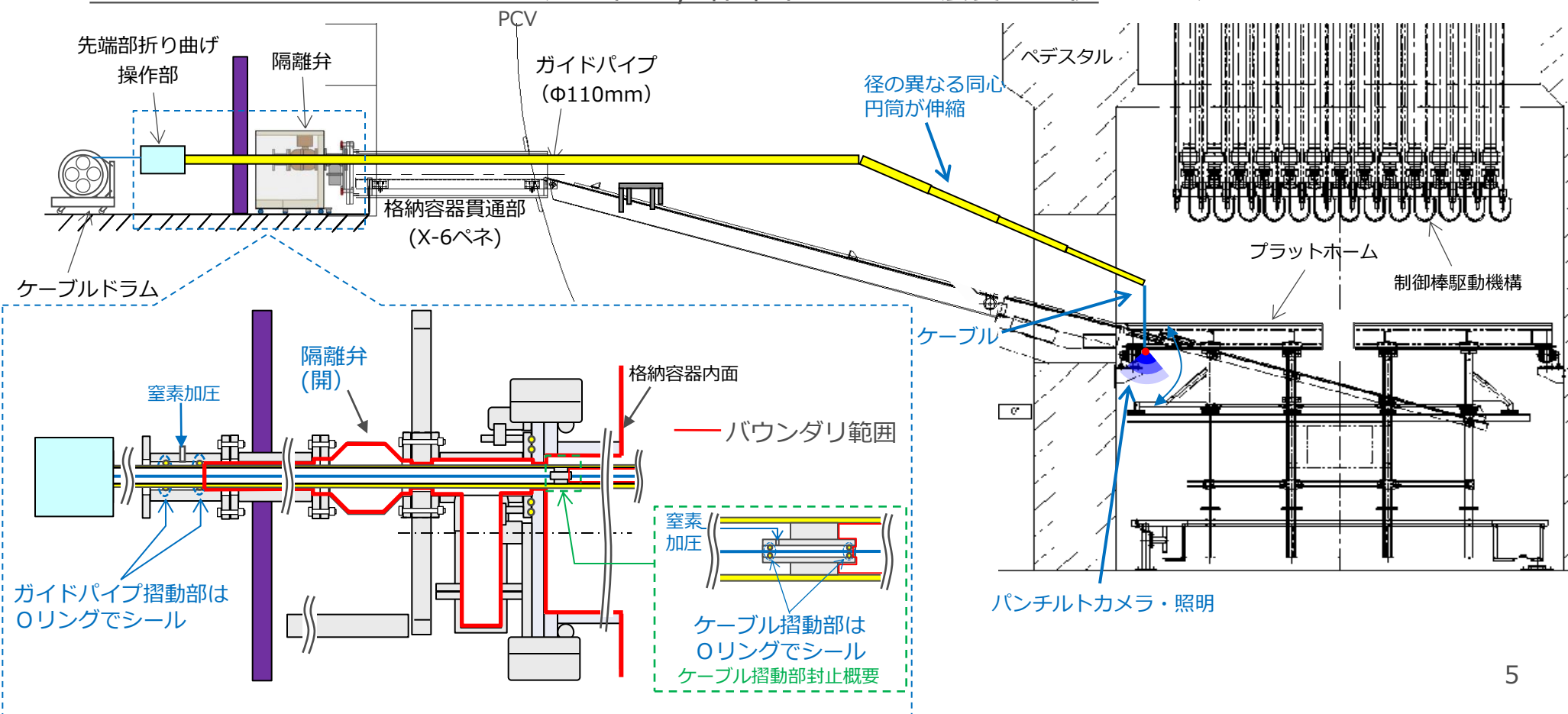
- 2017年1～2月PCV内部調査で使用したテレスコピック式調査装置を改良する。ガイドパイプ長さを伸長させ、その先端に吊り下ろし式カメラを設置した調査装置を用いる。
- 調査においては、調査装置の先端をペDESTAL内のグレーチング脱落部の上まで到達させた後、カメラを吊り下ろし、プラットフォーム下の状況を調査する。
- 今回の改良にて、2017年1～2月PCV内部調査時よりもペDESTAL内にガイドパイプ先端を到達させて、CRDハウジング等のプラットフォーム上の状況を再度確認する。



ペDESTAL内事前調査概要(テレスコピック式調査装置)

4. 調査方法について (2/2)

- 調査にあたっては2017年1～2月PCV内部調査時と同様に、下図に示すように、ガイドパイプ摺動部を二重のOリングで封止することに加えて窒素を加圧することによりバウンダリを構築し、PCV内の気体が外部に漏れ出て周辺環境へ影響を与えないよう作業する。また吊り下ろしにより摺動するケーブルについても同様のバウンダリを構築し、周辺環境へ影響を与えないよう作業する。
- なお、PCV内の気体が外部に漏れ出て周辺環境へ影響を与えていないことを確認するため、作業中にダストモニタによるダスト測定を行い、作業中のダスト濃度を監視する予定。



5. 工程案について

作業項目	2017年度		
	12月	1月	2月
事前準備	習熟訓練	現地準備	
PCV内部調査		PCV内部調査	